

小児科 臨床研修到達目標（必修）

1. 特徴

成長期にある小児の特徴や、疾患の特異性を学ぶ。

一般的な小児疾患だけでなく、専門外来や小児救急医療を経験する。

小児の虐待を学ぶ。

2. ねらい

将来の専門性に関わらず、新生児を含む小児科全般の日常診療で頻繁に遭遇する疾患や病態に適切に対応できるよう、プライマリ・ケアの基本的な診療能力（態度、技能、知識）を身につける。小児医療における地域中核病院として、小児救急診療を研修する。

小児の心理・社会的側面に配慮しつつ、新生児期から思春期までの各発達段階に応じた総合的な診療を行うために、幅広い小児科疾患に対する診療を行う病棟研修をする。

3. 一般目標

- 小児の基本的な医療とその技術を習得する。
- 患者と家族の立場に立った医療サービスが出来る。
- 健康な小児の発達、成長、検査所見を理解し、月齢にそって適切に評価出来る。
- 小児の救急蘇生と全身管理が出来る。
- 小児に特有の疾患の病態生理と対処を理解出来る。
- 乳児健診、予防接種の知識をもち、家族に適切な指示と指導が出来る。
- 小児時間外救急医療の現状を実体験し、基本的診療を学ぶ。
- 病状を把握して小児科医への緊急転送の必要性を判断出来る。

4. 研修方略

指導医全員で、一名ないしは複数名の研修医の指導に当たる。マンツーマンスタイルはとらない。主に、日常の小児科診療業務で遭遇する各種疾患に対する知識と、それに対する基本医療技術を学び、習得する。毎日の業務終了時には、スタッフ全員での入院や外来患者の検討会を行い、研修医は症例の理解を深め、小児科診療での考え方・特殊性を学ぶ。指導医の下で外来診療を学ぶ。時間外一次・二次救急医療にはスタッフの一人として参加し、当直医をサポートすると共に、小児救急医療の現状・現場を学ぶ。

研修中に下記の項目を行うこととする

- 1) 身体計測、発育の評価
- 2) 問診
- 3) 診察
- 4) 点滴、静脈注射、採血、腰椎穿刺
- 5) 治療計画に参加
- 6) 検討会（毎日診療終了後に入院・外来症例について検討）
- 7) 脳波、CT/MRI検討会
- 8) 当直サポート（地域中核病院として、主に一次・二次救急を担当）
- 9) 定例のCAPS会議に参加

5. 週間スケジュール

科	月	火	水	木	金	土
小児科	病棟 一般外来	病棟 一般外来	病棟 一般外来	病棟 一般外来	病棟 一般外来	病棟 一般外来
	病棟 検討会	外来 予防接種 検討会	外来 乳児健診 アレルギー外来 腎臓外来 CAPS 会議 検討会	外来 病棟 内分泌外来 循環器外来 検討会	外来 神経外来 検討会	検討会

6. 研修評価

- 1) 自己評価：PG-EPOC を用いて自己評価を行う
(症候、疾病・病態の経験については PG-EPOC にて確認を行う)
- 2) 指導医による評価：PG-EPOC を用いて研修医を評価する
(症候、疾病・病態の経験については PG-EPOC にて確認を行う)
- 3) 研修医による研修体制評価：PG-EPOC を用いて診療科全体（指導内容、研修環境）を評価する

7. 指導体制

指導責任者 税所 純也

指導医 税所 純也

小児科 臨床研修到達目標（選択）

1. 特徴

新生児期を含めた小児の特徴や、疾患の特異性を学ぶ。

小児救急医療において、指導医の指示のもと診察、検査、治療計画の立案を経験する。

小児の虐待を学ぶ。

2. ねらい

入院中の小児入院患者について、全身管理を中心とした的確な病態把握に努めるとともに、一般的な採血や尿検査、腰椎穿刺などの手技を取得する。

小児救急外来において、指導医の指示の下で実際に患者の診療を行い、検査・治療計画の立案を行い、実際に検査や治療に携わる。

新生児に特有の疾患について学び、全身管理に努める。

3. 一般目標

- ・新生児を含めた小児の基本的な医療とその技術を習得する。
- ・患者と家族の立場に立った医療サービスが出来る。
- ・健康な小児の発達、成長、検査所見を理解し、月齢にそって適切に評価出来る。
- ・新生児を含めた小児の救急蘇生と全身管理が出来る。
- ・小児に特有の疾患の病態生理と対処を理解出来る。
- ・乳児健診、予防接種の知識をもち、家族に適切な指示と指導が出来る。
- ・小児時間外救急医療の現状を実体験し、基本的診療を学ぶ。
- ・病状を把握して小児科医への緊急転送の必要性を判断出来る。
- ・小児の虐待について適切な対応と医療福祉制度を学ぶ。

4. 研修方略

指導医全員で、一名ないしは複数名の研修医の指導に当たる。マンツーマンスタイルはとらない。主に、日常の小児科診療業務で遭遇する各種疾患に対する知識と、それに対する基本医療技術を学び、習得する。毎日の業務終了時には、スタッフ全員での入院や外来患者の検討会を行い、研修医は症例の理解を深め、小児科診療での考え方・特殊性を学ぶ。指導医の下で外来診療を学ぶ。時間外一次・二次救急医療にはスタッフの一人として参加し、当直医をサポートすると共に、小児救急医療の現状・現場を学ぶ。

研修中に下記の項目を行うこととする

- 1) 身体計測、発育の評価
- 2) 問診
- 3) 診察
- 4) 点滴、静脈注射、採血、腰椎穿刺
- 5) 治療計画に参加
- 6) 検討会（毎日診療終了後に入院・外来症例について検討）
- 7) 脳波、CT/MRI検討会
- 8) 当直サポート（地域中核病院として、主に一次・二次救急を担当）
- 9) 定例のCAPS会議に参加

※週間スケジュール・研修評価・指導医は必修と同様